



よいことの
ために
手を取りあおう



RI 会長：フランчесコ・アレツォ

2620 地区ガバナー：稲葉 雅之

会長：齋藤 高子 幹事：植山 和人 会場監督：妻鹿 政光

例会：毎週金曜日 19:00 ~ 20:00

グランドホテル浜松 〒432-8507 浜松市中央区東伊場 1-3-1 Tel: 053-450-3003 Fax: 053-450-3006

E-Mail: hamamatsu-naka@ri2620.gr.jp

2026年1月28日(水) 晴 第1720回例会 週報 NO. 20

浜北 RC・浜松ハーモニーRC 浜松中 RC 合同例会

点 鐘：山内 慶太

浜松ハーモニーRC 会長

ロータリーソング

「それでこそロータリー」

ゲスト

ミサワホーム

秋元 茂 様 他2名

会長挨拶

☆橋本直道 浜北 RC 会長



今日は南極の体験談を伺います。南極クラスは子どもたちに夢と希望を届けます。

合同例会を通して、親睦・情報交換を図り、ますます友情を深めることを期待します。

☆齋藤高子 浜松中 RC 会長



本日はミサワホームの皆さんに貴重な体験を伺います。楽しみにしています。

本年は川井ガバナー補佐のもと

アマモの合同奉仕では皆さんに大変お世話になっております。3月7日の IM に多数のご参加をお願い致します。

☆山内 慶太

浜松ハーモニーRC 会長



合同例会で友情を深め、新たな可能性を開くのはロータリーにとって好ましいことです。越冬隊の皆さんのチームワークはロータリーの奉仕にも通じるものがあると思います。

卓話「子どもたちに夢と希望を 届ける南極クラス活動」

ゲスト紹介：安間みち子会員



秋元さんは 1990 年にミサワホームに入社。2009 年から 11 年にかけて南極地域観測の隊員として活動されました。先ほど伺いましたが、南極観測は夏隊と越冬隊に分かれ、夏隊は 3 か月で帰国しますが、越冬隊は 1 年以上、雪と氷の中に取り残されるとのこと。過酷な経験をされてきました。その

後、子どもたちのために南極クラスとして、あちこちで講演をされています。2017 年からは JAXA と共同で、月面と火星に住宅を建てる共同研究をしているそうです。

秋元 茂 様



今日は南極で過ごした 1 年 3 か月のことやミサワホームがどんな仕事をしているかなどをお話したいと思います。

入社した時は南極のことは何も知りませんでしたが、その後先輩に話をきいて興味を持つようになりました。南極は基地を作ったり作業をするところですから、設計者が何故と思いましたが、観測をするためにはそれに適した建物が必要で、今後の基地づくりのために観測隊に参加しました。

また、2017 年には JAXA から声がかかり、地球の極限の地や今後の月面基地を盛り上げるための研究をしています。

ミサワホームは 1968 年から南極の建物を作っています。技術的優性や工業化均質を国が認めてくれたということで受注がきていると思います。私がいた時を境にミサワホームはメンテナンスの必要もあり、毎年隊員を派遣しています。今 3 人、南極にいます。今年の秋には、いよいよ静岡からも隊員が参加する予定です。

日本では最初に白瀬矗さんが南極に行きました。最初に南極観測を始めたのは 1956 年でした。これが戦後初めての国際舞台でした。世界各国で地球をしっかりと観測しようという国際協力事業で、日本も参加させてもらいました。でも敗戦国として、参加に反対もありましたので、与えられたのは条件の悪い場所でした。越冬隊長は京都大学の西堀栄三郎さんでした。「雪山賛歌」の詩や心に残る名言もいっぱい残しています。

越冬隊員の服装は、靴を厚底にして冷気を入れないようにしています。洋服もマイナス 60 度にも耐えられます。でも汗をかくので、インナーが重要です。手袋も三重、四重にします。それで靴紐を結ぶ練習をします。JAXA でも、分厚い手袋でどのくらい細かい作業ができるのかということを研究しています。

隊員の構成は、観測系、設営系（隊員の生活を支える人たち）、同行者（マスコミ関係、学校の先生）。総勢 70~80 人です。その中でも越冬するのは 30 名ほどで、機械、建築関係は企業の方です。

南極は地球の軸が傾いているので、夏の 2 か月は太陽が沈まない白夜です。夜中でも明るいので、観測や作業が休みなく続きます。我々建築隊員は昼間は建築作業、夜は雪上車で荷物を引っ張って運びます。平均睡眠時間は 2 時間くらいです。逆に極夜の時は、太陽は地平線を這うように進み、地平線の上に出るのは 30 分ほど。地平線はオレンジ色にはなっていますが、夏至の時には真っ暗です。極夜の時は本当に大変でした。極夜の時は大体の人がうつ状態になります。

我々は頻繁に健康診断を受けます。精神鑑定は最後まで重要になります。万が一、宇宙へ出て行かねばならない時のために、極限状態の健康状態を調査しています。南極の最低温度はマイナス 80 度。冷凍庫がマイナス 18 度ですから、いかに寒かわかります。

マイナス 45 度とマイナス 80 度、私の感覚では寒さはあまり変わらず、痛さを感じました。

寒い中でも遊びを考え、オーロラを見ながら、露天風呂に入りました。すごく気持ちが良いのですが、長く入っているとお湯の湯気が凍ってくるので、大変でした。シャボン玉は下から結晶になって凍って行きます。

南極で活動するにはビザが要ります。パスポートは外交官と同じ緑色のものです。そして環境庁が発行するパスポートも持っています。南極は国ではなく、国連の条約があり、世界各国で守られています。上陸するには環境省への申請が必要なのです。

「しらせ」はとても大きな船です。途中暴風圏を通ると、氷山に出会うようになります。大きなものは山手線の内側くらいあります。そして氷の上に乗る、自分の重さで氷を砕きながら進みます。

日本は昭和基地のほかに、あすか、みずほ、ドームふじ、3 つの基地を持っています。昭和基地は東オングル島にあります。

基地の中では、手術は年 2 回ほどあります。医者はいますが、看護師はいません。ですので、日直が手伝うことになります。私も手伝ったことがあります。インターネットもつながり、LINE もできます。食堂やバー、ウォッシュレットのトイレもあります。

居住棟は高床式で、床暖房の効いた室温 20 度で完璧な個室です。エネルギー棟は設計デザインだけで 3 年くらいかかりました。上に雪が積もらせないように高床式にし、風の力で積もった雪を飛ばすようにしています。自然の力を使っていかに快適に暮らすかを考えています。

実は南極では吐く息が白くなりません。でも排気ガスの近くに行くと白く見えます。

南極の氷は圧雪といって、雪が積もっていき、下の雪が重みで固くなったものです。ですから地層の下から掘り出した氷を調べると、1 万年~2 万年前の地球環境が大体わかります。

世界の氷の 90%は南極です。因みに北極は 1%です。それが全部溶けると海面は 60m上がります。東京は水没です。実は今、氷が

溶けだしていると言われている。

南極の一番高い所は 4000m。その一つに日本のドームふじ基地があり、4000m 下の氷を採掘して調べています。100 万年前の氷と言われ、これを調べることで 40 万年後の予測ができるとされています。

南極の建物は自然条件の利用や省エネの工夫が必要です。風も強く、風速 60m 常に吹いている状態ですから、建物は風に強くないとだめです。そして耐久性も重要です。さらに人数が限られる南極では、現場にいる建築関係者以外の人の手を借りても高品質が保たれないといけません。これが JAXA の研究につながっています。2030 年代には月面基地ができるでしょう。ここにも国際ルールがあり、月面では世界各国政府機関ではなく、民間の商業ベースに任せることになっています。ですので我々も昭和基地ではなく、過酷な環境のドームふじに行って調査をしています。

私たちの経験談を教育プログラムに活かすように南極クラスの活動をを行っています。阪神や東日本のプレハブの関わりから、「これからやるのは小学生なのだから、小学生に受け繋げないといけない」と考えました。震災の時は皆で力を合わせ、観測隊員もチームワークが大切です。そこから南極クラスが始まりました。仙台で始め、好評でしたので、全国展開することになりました。「子供たちに夢と希望を」を合言葉に、2025 年には全ての都道府県でできました。これ以外に南極セミナーもあります。どちらも本物の体験を大事にしています。

タブレットで経験できるインスクールというものあり、ミサワホーム総合研究所の HP から入ります。ご家庭でお子さんと経験できるので、やってみてください。

この体験を次の世代に伝えていきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いします。